



第46回全国町並みゼミ小樽大会

小樽運河100年の歴史から考える

～今、ふるさとの魅力を未来へ～

2023年10月

第1日目

13金

第2日目

14土

第3日目

15日



【共催】第46回全国町並みゼミ小樽大会実行委員会・小樽市・NPO法人全国町並み保存連盟

【後援団体】国土交通省、農林水産省、文化庁、観光庁、北海道、小樽市教育委員会、小樽商工会議所、一般社団法人小樽観光協会、公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟、公益社団法人日本建築士会連合会(後援予定)、公益社団法人日本造園学会、公益社団法人日本都市計画学会、公益社団法人土木学会、公益財団法人日本ナショナルトラスト、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人文化財建造物保存技術協会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本イコモス国内委員会、全国伝統的建造物群保存地区協議会、歴史の景観都市協議会、北海道新聞社、エフエム小樽放送局



第46回全国町並みゼミ
小樽大会実行委員会
実行委員長
中 一夫

3度目の小樽大会にあたり

北の運河のまち・小樽へようこそおいでくださいました。

全国町並みゼミの北海道での開催は、第3回小樽・函館大会、第24回小樽大会、と3度目となります。同一都市の3度目の開催も小樽が初めて。

1980年の大会は、「あたらしい町自慢の創造を」をテーマに小樽運河の在廃問題を論じていただき、大きなご支援をいただいた画期的な大会でした。女性と若者中心の実行委員会でしたがその後の小樽のまちづくりに大きな影響を与えることができました。

今回は、コロナ禍明けの中、5年ぶりの2泊3日の大会とさせていただきます。小樽市と民間とが一枚岩となって実行委員会を形成しています。迫俊哉小樽市長の熱意と私共のやる気が「小樽運河100年の歴史から考える～今、ふるさとの魅力を未来へ～」の大会テーマに結びつきました。

全国のみなさま、台湾のみなさま、多くの交流を通して地域の未来を切り拓く論議を楽しく進めてまいりましょう。地球規模で、歴史文化の重要性がますます問われる時代になってくることでしょう。全国町並み保存連盟とみなさま方の活動が地域社会をよりよい方向へ導く原動力となっていきます。力を合わせて歩んでいきましょう。



小樽市長
迫 俊哉

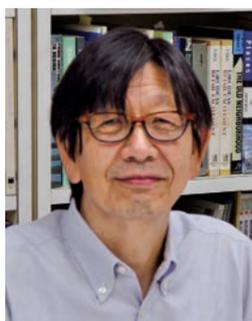
これからのまちづくりに新たな一歩を

第46回全国町並みゼミ小樽大会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、小樽市での大会開催は、1980年、2001年に続く3度目であり、大変、光栄に思っています。

本市は、明治時代初期に北海道における物流の拠点として港湾と鉄道の整備が進み、当時国内有数の経済都市として急激な発展を遂げました。その後、斜陽のまちと呼ばれた時代を経て、昭和後期の小樽運河保存運動により、明治から昭和初期の面影を色濃く残す歴史的な町並みが全国から注目を浴び、小樽運河の再生とともに、観光都市として生まれ変わりました。

10年におよぶ保存運動が契機となり、歴史的な町並みの価値が再認識されましたが、近年、市内に残る歴史文化遺産が少しずつ姿を消しています。まちの遺産をどのように保存・活用し、後世に伝えていくのが全国的な課題となる中、本大会では、多くの方が竣工100周年の小樽運河の歴史に学び、これからのまちづくりに思いをはせ、ともに新たな一歩を踏み出すことを期待しております。

結びに、本大会の開催に当たり、多大なるご尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝を申し上げるとともに、本大会が皆様にとって実り多きものとなり、全国の町並み保存の取組がより一層発展することを祈念いたします。



NPO法人
全国町並み保存連盟
理事長
福川 裕一

次の20年を切り拓く大会に

いよいよ、第46回全国町並みゼミ小樽大会が始まります。小樽での町並みゼミは3回目。1回目の1980年は、町並みゼミもまだ3回目、小樽運河保存運動が燃え盛るまっ最中に開催されました。参加者は、「あたらしい町自慢の創造を」の輪を全国に拡げ、前進することを宣言し、小樽運河のその後の展開を固唾を飲んで見守りました。2回目の第24回全国ゼミは、世紀の変わり目の2001年に開催されました。峯山富美さんによる基調講演に続き、この間の歴史まちづくり運動の成果や課題を振り返り、21世紀を展望する大会となりました。そして今回。2019年に小樽で行った総会と合わせて開催された「小樽100年プロジェクト・セミナー」で採択された「小樽の歴史的建造物と文化財を活かすまちづくり宣言」がきっかけです。宣言は、都市内に点在する主に鉄筋コンクリート造の小樽の歴史的建物を念頭に「法律や制度にもとづいて最新の修復技術を随時導入して維持、保全と活用をおこなうことによって、小樽の「近代」の歴史的建造物とそのまちなみが全国で随一となり、ひいては市民がまちに一層誇りを持つこととなります。」と、新たな課題と決意を表明しました。

ほぼ20年間隔で行われ、次の20年の歴史まちづくりへの道標を描き出してきた小樽大会。今回もまた、次の20年を切り拓く画期をなす大会になると確信しています。

《大会主旨》

2023年は小樽運河が竣工して100年。その記念の年に、小樽で「全国町並みゼミ」が開催されます。戦前に商工港湾都市として栄華を誇った小樽は、戦後、産業構造の変化に対応できずに高度成長期には斜陽都市となっていました。そんな中、商工港湾都市としての復活を願った都市開発計画をめぐって論争が勃発したのです。約50年前に起きた小樽運河論争では市民・行政・経済界がそれぞれの「まちの将来」を思い、運河の存続についてまちを二分する大論争が繰り広げられました。およそ10年に及んだ論争が終結し、形を変えた運河は小樽の中心的な観光資源として生まれ変わりました。

この大論争の末に得られたものは、市民・行政・経済界が本気で「まちづくり」に対して関心を高め、歴史的な町並みや文化財が観光資源として重要なコンテンツであると共有できたことです。その意識の変化はまちとして大きな財産となりました。

しかし、小樽観光元年といわれる1986年からこれまで「良質な町並み・景観の保存」、「観光の経済波及効果の向上」など課題が指摘された中、解決ができないまま今日に至っています。

今回の小樽での全国町並みゼミは1980年、2001年に続く3度目となります。本大会はこれからの100年先を見据え、小樽が抱える課題を明確にし、持続可能な歴史文化都市を実現するために全国の様々な先進事例に学びます。市民・行政・経済界がビジョンを共有して、市民にとって住みよく誇りの持てるまち、そして訪れる人にとって魅力的なまちを目指します。

1 小樽の歴史 ～繁栄・衰退・再生～

小樽は、江戸時代よりニシン漁業を営む人々で集落が形成され、明治以降「無比のニシン漁場」として栄華を極めます。1869（明治2）年の海官所設置後、商船の来航が自由化されると北前船の往来が盛んになり、北海道開拓を支えるとともに、小樽の発展の基礎をつくりました。同年、札幌に開拓使が設置されると、小樽は北海道開拓の最重要港湾として位置づけられ、港湾の整備に加え、石炭輸送のため、1880（明治13）年に北海道最初の鉄道（旧手宮線）が小樽－札幌間に開通。1882（明治15）年には全線開通し、石炭輸送が開始されました。港湾と鉄道が結びついた小樽は、北海道の物流拠点として急速に発展。大資本や大手銀行が次々と進出し、小樽は北日本随一の経済都市となります。しかし、昭和30年代後半には社会環境の変化により、大手の石炭、貿易、船舶関係会社、都市銀行が相次いで撤退、経済が衰退する小樽は「斜陽のまち」と称されるようになりました。

1966（昭和41）年、実用的な用途を失い、荒廃が進んだ小樽運河を埋め立てて道路を建設する都市計画が決定。石造倉庫群の取り壊しが始まると、市民の間に小樽運河や石造倉庫群を守ろうとする運動が起こります。約10年にわたり市中を二分した大論争の結果、小樽運河は半分埋め立てられ、道路と水辺の散策路となりました。小樽運河保存運動は、運河だけではなく多数の歴史的建造物の保存・活用につながり、歴史を活かすまちづくりの認識を一般市民から行政、経済界へと広め、全国のまちづくり運動に影響を与えました。

2 小樽の近代建築

明治20年～30年代、多くの北前船主たちが小樽に進出し、物資保管の石造倉庫群を築きます。石造倉庫は、防火性が高く、外壁材となる軟石が小樽の奥沢や天狗山で採れたことなどから、小樽に数多く建てられました。

明治末期、大資本や大手銀行の支店が次々と進出し、ビジネス街区として急発展した色内地区には、日本の建築教育の先駆け工部大学校造家学科第一期卒業生の、佐立七次郎、辰野金吾、曾禰達蔵ら近代建築のパイオニアが各時代の建築様式や最新の工法を採用した作品が集中しており、これらは、文化財指定や市の景観条例に基づく指定により保全が図られています。

佐立七次郎設計の旧日本郵船株式会社小樽支店は、1906（明治39）年建築、1969（昭和44）年国の重要文化財に指定。荘厳な社屋は小樽を代表する石造建築であり、現在、保存修理工事中で一般公開の再開が待たれています。

辰野金吾、長野宇平治、岡田信一郎設計の日本銀行旧小樽支店は、1912（明治45）年建築、2002（平成14）年に小樽市指定有形文化財に指定。海を見渡す望楼など小樽ならではの特色もみられ、現在は、金融資料館として一般公開されています。

曾禰達蔵と中條精一郎設計の旧三井銀行小樽支店は、1927（昭和2）年建築、2022（令和4）年に国の重要文化財に指定。外壁は花崗岩を用いて石造を模している一方で、当時の最先端技術である耐震構造の鉄骨鉄筋コンクリート構造を採用しており、現在は、小樽芸術村の施設の一つとして一般公開されています。



旧手宮鉄道施設



小樽運河（再整備前） 写真/志佐公道



小樽運河（再整備後）



旧日本郵船株式会社小樽支店



日本銀行旧小樽支店



旧三井銀行小樽支店

3 小樽の歴史的町並み

小樽市のシンボルである天狗山からまちを一望すると、小樽港と市街地全体を見渡すことができます。このまちで青春時代を過ごした小説家の小林多喜二は、小樽のまちを「北海道の『心臓』みたいな都会である」と表現しました。現在も、往時の姿を偲ばせる建造物と町並みは、歴史的背景や風土と相まった景観を創出しています。

色内地区の多彩な様式が並ぶ異国的な建築と町並みは、半径500mの中に明治・大正・昭和各時代の最先端の技術と材料で造られた建築が凝縮する、日本でここだけのビジネス街区であり、さながら「近代建築の博物館」です。それらと路地裏の倉庫や商店などの石造りの建物が調和することで小樽独特の趣のある景観を形成しています。市は、1983（昭和58）年に北海道最初の景観条例となる「小樽市歴史的建造物及び景観地区保全条例」を制定し、小樽を代表する建築物を「小樽市指定歴史的建造物」に指定するとともに、小樽らしい歴史的都市景観を形成している地区を「景観地区」に、歴史的建造物又は景観地区と関連を持ち、都市環境を整備すべき地区を「修景整備地区」に指定し、小樽市指定歴史的建造物の修復等や景観地区内の建築物の修景、景観地区及び修景整備地区内の風致を保全するための造景に対して経費の一部を補助するなどの整備を進めました。

1992（平成4）年には、「小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例」に移行し、この条例においても歴史的建造物を登録・指定することによって保全を図り、歴史、文化等からみて小樽らしい良好な景観を形成している重要な区域を「小樽歴史景観区域」に指定し、新旧調和のとれた都市景観の創出を目指しています。

4 運河論争から歴史を活かしたまちづくりへ

小樽は、「民の力」が主体となり、まちを動かしてきました。約10年にわたる小樽運河保存運動も「民の力」によるものであり、運河論争は、市民や行政などが議論、対立しながら、結果的に運河周辺の歴史的景観の保存・活用に向けた協働という成果をもたらしました。この「民の力」による協働の文化は今日の様々な活動に引き継がれ、小樽運河保存運動を契機としてまちづくりに取り組む団体・組織が次々と生まれます。歴史的建造物の再利用も活発に行われ、特徴的な建築群と町並みは多彩な活動で蘇り、金融街、倉庫群、商店や石蔵などはそれぞれ文学館・美術館、博物館、飲食・物販店などに転用されています。旧手宮線は、レールが残る散策路となって市民や観光客に親しまれています。

2020（令和2）年9月、「旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫」は、所有企業からの解体方針が報道されると広く市民の関心を集めました。小樽商工会議所と小樽観光協会を主体とした民間組織「第3倉庫活用ミーティング」が立ち上がり、建築や文化財の専門家、まちづくり団体等のメンバー、所有企業と市が参画するオール小樽体制で保全・活用に向けた取組が進められ、2021（令和3）年12月、市が所有することが決定しました。現在は、市と連携協定を締結したNPO法人OTARU CREATIVE PLUSが第3倉庫の新たな価値を生み出すために活動しています。

近年の小樽では、小樽固有の建築群と町並みを積極的に保存・活用しようと、現代版「民の力」といえる様々な取組が官民協働で進められています。2023（令和5）年からは、歴史まちづくり法に基づく「小樽市歴史的風致維持向上計画」の策定に着手し、国の認定を目指しています。



天狗山からの眺望



色内銀行街



路地裏の石造倉庫群



色内大通りの石蔵



小樽芸術村似鳥美術館



旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫

会場 小樽市民センター〈マリンホール〉(小樽市色内2丁目13-5) →



12:00 ~ 13:00 受付(マリンホールロビー)

13:00 ~ 13:30 開会セレモニー(マリンホール)

- 開会挨拶 第46回全国町並みゼミ小樽大会実行委員会実行委員長 中 一夫
- 主催者挨拶 NPO法人全国町並み保存連盟理事長 福川 裕一
- 開催地挨拶 小樽市長 迫 俊哉
- 来賓挨拶 国土交通省都市公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室課長補佐 森井 康裕氏
文化庁文化財第二課文化的景観部門 文化財調査官 永井 ふみ氏

13:30 ~ 14:20 記念講演(マリンホール)

「台湾の町並み保存とまちづくり・全国町並みゼミと峯山富美」
丘 如華氏(チュー・ルーファー)(台湾歴史資源経理学会秘書長)

【講師プロフィール】 廣東省生まれ。オーストリア・ウィーンで音楽を学び、1980年代から史跡保存と活用に取り組んできた。1986年に「楽山文教基金会」を設立し、自ら執行長に就任。1987年に戒厳令が解除されると、同基金会は通化街(台北市大同区)の史跡保存運動をスタート。2004年に「台湾歴史資源経理学会」を設立。歴史的資産の保存を通して、台湾における日本の歴史・文化に対する理解の促進に貢献、日本の地方創生に関わる数多くの台日交流において重要な役目を果たしてきた。令和2年度秋の外国人叙勲で旭日単光章を受賞。
※講演は台湾語にて行われ、日本語に翻訳された画面にてご視聴いただけます。

14:20 ~ 15:00 小樽報告I・講演(マリンホール)

「小樽運河論争の対立構造 — その遺産と新たな動き」
講師: 堀川 三郎氏(法政大学社会学部 教授)

要旨 日本における歴史的景観保存運動のさきがけとなった小樽運河。「日々書き下ろされる、まちづくりの教科書」とまで評された小樽運河保存運動は、なぜ負けたのか。小樽市行政はなぜ、頑なに道路建設にこだわったのか。約40年間にわたり当事者たちの語りを丹念に追い、行政のこだわりの理由、住民が運河と運動に懸けた想いを分析した『町並み保存運動の論理と帰結』(東京大学出版会)の著者が、保存運動と市当局の対立構造を分析します。それは小樽の「現在」を理解するための有効な補助線になるに違いありません。

15:00 ~ 15:55 小樽報告II・パネルディスカッション(マリンホール)

「歴史に学び、これからの小樽のまちづくりを考える」

- コーディネーター: 高野 宏康氏(国立大学法人小樽商科大学 客員研究員)
パネリスト: 福島 慶介氏(NPO法人OTARU CREATIVE PLUS 専務理事/ ㈱福島工務店 代表取締役)
パネリスト: 笠田健太郎氏(一社)小樽青年会議所/小樽大会副実行委員長
パネリスト: 永岡 朋子氏(一社)小樽観光協会/小樽大会副実行委員長

かつてまちを二分した「小樽運河保存運動」は、現在の小樽市のまちづくりに大きな影響を与えました。約40年の時が経ち、埋め立て前的小樽運河の姿もこの論争の過去も知らない若者が増えてきています。保存運動の歴史から何を学び、これからのまちづくりにどう活かしていくのか。世代を超え未来志向で小樽のまちづくりを考える場とします。

15:55 ~ 16:45 各地からの報告(マリンホール)

16:45 ~ 17:45 ブロック別会議(小樽市民センター内の各会議室)

18:30 ~ 20:30 交流会

(会場: ニュー三幸 小樽本店/小樽市稲穂1丁目3-6) →



小樽運河早朝清掃活動 6:30 ~ 1時間程度 [集合場所] 小樽運河浅草橋街園(小樽市港町5)

歴史文化まち歩き

[集合場所] 小樽市観光物産プラザ(運河プラザ)(小樽市色内2丁目1-20)

- 14日からご参加の方で午前の「歴史文化まち歩き」にご参加の方はこちらで受付をお願いします。
- 13日に受付された方は、お配りした名札のご提示で、14日午前の「歴史文化まち歩き」および「各分科会」にご参加いただけます。

[受付開始] 9:00~ (受付終了後、整理券にて時間毎にグループ分け。集まり次第、9:30~9:45~10:00~ 出発します。)

[出発時間] 第1グループ 9:30~10:55(終了)
第2グループ 9:45~11:10(終了)
第3グループ 10:00~11:25(終了) ※各コースとも、市内小学生と高校生の案内人が一部のガイドを担当します。

Aコース

日本の近代化を牽引した小樽を学ぶコース

(北運河地区: 旧日本郵船(株)小樽支店~旧国鉄手宮線は自由散策)

観光の中心スポットから運河中央、運河散策路を通過、幅員がほぼ創設時のままの北運河地区を通り、国指定重要文化財「旧日本郵船(株)小樽支店」や、北海道鉄道発祥の旧国鉄手宮線を散策するコースです。

《第1グループ》第2グループは9:45~、第3グループは10:00~ 出発します。

- 9:30 旧小樽倉庫(運河プラザ)前(子ども案内ポイント)
- 9:45 旧小樽倉庫(運河プラザ)発
- 10:00 旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫前(子ども案内ポイント)
- 10:15 旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫発
- 10:30 運河公園(子ども案内ポイント)
- 10:45 運河公園にてその後の見どころ等説明
- 10:55 終了



旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫



旧日本郵船(株)小樽支店

Bコース

色内銀行街と小樽運河の今を知るコース

(色内銀行街: 日本銀行旧小樽支店~堺町通は自由散策)

観光の中心スポットから、日本銀行旧小樽支店などの銀行建築物が建ち並ぶ町並みを巡り、観光で賑わう堺町通り商店街の商店建築や石倉などが再活用されている町並みを巡るコースです。

《第1グループ》第2グループは9:45~、第3グループは10:00~ 出発します。

- 9:30 旧小樽倉庫(運河プラザ)前(子ども案内ポイント)
- 9:45 旧小樽倉庫(運河プラザ)発
- 9:55 浅草橋(子ども案内ポイント)
- 10:10 浅草橋発
- 10:25 日本銀行旧小樽支店前(子ども案内ポイント)
- 10:40 日本銀行旧小樽支店にてその後の見どころ等説明
- 10:50 終了



日本銀行旧小樽支店(金融資料館)



小樽運河浅草橋街園

分科会

第1分科会

地域固有の町並みを活かしたまちづくりと法制度

分科会まち歩き 13:00から1時間程度 受付開始 12:30

集合場所 小樽芸術村〈旧三井銀行小樽支店 ※国指定重要文化財〉
(小樽市色内1丁目3-10)

会場の旧三井銀行小樽支店から、旧北海道拓殖銀行小樽支店、日本銀行旧小樽支店、旧北海道銀行本店などの銀行建築の建ち並ぶ色内界隈の経済を支えた文化遺産を巡ります。

分科会パネルディスカッション 14:00頃～

会場 小樽芸術村〈旧三井銀行小樽支店 ※国指定重要文化財〉
(小樽市色内1丁目3-10)

国内には、近代建築などによって地域固有の町並みが形成されている都市があります。それらの都市は、日本の近代化の過程や特徴を表し、近世までの町並みと同様に歴史的価値を有することから、建造物単体ではなく、町並みとして保全を図る必要があります。近代建築などで形成される地域固有の町並みの保全活用について、他都市の事例などを参考に、法的な視点でまちづくりを考える分科会とします。

コーディネーター

岡崎 篤行 氏〔新潟大学工学部工学科 教授 / 連盟理事〕

アドバイザー

福川 裕一 氏〔NPO法人全国町並み保存連盟理事長 / 千葉大学 名誉教授〕

パネリスト

水島 あかね 氏〔明石工業高等専門学校建築学科 教授〕

山本 真也 氏〔函館の歴史的風土を守る会 副会長 / 元函館市教育長〕

駒木 定正 氏〔小樽市文化財審議会 会長〕

【論点】

全国では伝建制度、歴史まちづくり法、独自条例などで町並みの保全活用を図っています。近代建築などで形成される地域固有の町並みの保全活用について、他都市の事例などを参考に法的な視点でまちづくりを考えます。



旧三井銀行小樽支店
(現 小樽芸術村)

戦前の小樽の銀行街を象徴する代表的な建築物の一つ。1927(昭和2)年に竣工、2016(平成28)年にニトリが所有者となり、2022(令和4)年に国の重要文化財に指定されました。



旧北海道拓殖銀行小樽支店



日本銀行旧小樽支店



旧北海道銀行本店

第2分科会

まちづくりと担い手

分科会まち歩き 10:00から1時間半程度 受付開始 9:30

集合場所 メルヘン交差点(小樽オルゴール堂前)
(小樽市住吉4-1)

商店、商家、石倉などが再利用され賑わっている堺町通り商店街から、NPOにより再利用されている旧寿原邸を見学後、分科会会場まで巡ります。

分科会パネルディスカッション 13:00～

会場 小樽運河ターミナル 4階ホール〈旧三菱銀行小樽支店〉
(小樽市色内1丁目1-12) ※4階までは階段での昇降となります。

小樽では運河保存運動以降も歴史的建造物の取り壊しが進み、その数は半減しています。小樽の中でも歴史が古く、港、問屋街、観光エリアと姿を変えながら地域発展をしてきた堺町通り周辺も同様ですが、若手経営者らが、現存する数多くの歴史的建造物の活用方法を見出しています。この堺町で新たな伝建地区の可能性を発見し、多様な関係者の合意形成に向け、若い担い手が主体となったまちづくりを考える分科会とします。

コーディネーター

西山 徳明 氏〔北海道大学観光学高等研究センター 教授 / 連盟理事〕

アドバイザー

大槻 洋二 氏〔荻市商工観光部 部次長 / 荻博物館 館長〕

パネリスト

中村 泰典 氏〔NPO法人倉敷町家トラスト 代表理事 / 連盟常任理事〕

山谷智恵子 氏〔NPO法人小樽民家再生プロジェクト 理事〕

簗谷 和臣 氏〔堺町通り商店街振興組合 / 旬利尻屋みのや 代表取締役〕

【論点】

運河論争以降、観光地として経済的に発展してきた堺町通りの現状を踏まえ、堺町エリアの町並みの価値とはなにか。誰のための町並みか。誰が持続的なまちを作っていくのか。まちづくりと担い手について議論します。



旧三菱銀行小樽支店
(現 小樽運河ターミナル)

1922(大正11)年に建てられた鉄筋コンクリート造4階建。1995(平成7)年に第18号小樽市指定歴史的建造物に指定されています。



堺町通り



北一硝子



旧寿原邸

1

2

分科会

第3分科会

水辺との関わりの再考 ～運河周辺の水辺環境づくり～

分科会まち歩き 13:00から1時間程度 受付開始 12:30

集合場所 小樽運河浅草橋街園
(小樽市港町5)

観光客で賑わう小樽運河の散策路、第3埠頭、北運河など、小樽の代表的な水辺空間を歩き、水辺と人の関わりや空間のあり方を肌で感じていただきます。

分科会パネルディスカッション 14:00～

会場 北海製罐(株)小樽工場事務所棟
(小樽市色内3丁目1-1)

姿こそ変わったものの、小樽運河保存運動により小樽運河は残され、小樽を象徴する水辺として現在、多くの観光客が訪れる場所になりました。一方、市民にとって本来癒しの空間となるはずの水辺(運河周辺)が、特に若い世代において、近寄りたがたい心理的距離間を感じる場所になっています。こうした、心理的距離間がなぜ生じているのかを考え、市民、特に若者にとって魅力的で訪れたいような水辺環境づくりは可能なのかを探ります。

「ひょうご・おたる運河調査隊」の子どもたちの発表(10分程度)

コーディネーター

海野 伸氏 [NPO法人盛岡まち並み塾 理事長 / 連盟理事]

コメントーター

八木 雅夫氏 [有明工業高等専門学校 校長 / 連盟理事]

アドバイザー

菅原 遼氏 [日本大学理工学部海洋建築工学科 海洋建築・建築デザイン研究室 助教]

パネリスト

松居 秀子氏 [NPO法人鞍まちづくり工房 代表理事]

稲垣 尚志氏 [函館市港湾空港部港湾課 主査]

岡部 唯彦氏 [実行委員会事務局長]

【論点】

水辺環境づくりの理論や国内外の事例についての基調講演の後に、パネラーの方々の水辺環境とのかかわりの実践を聞きながら、「歴史」や「景観」、「人々の水辺との関り」などをキーワードに、将来に向けた魅力的な水辺空間のあり方を考えます。



北海製罐(株)小樽工場事務所棟
小樽市指定歴史的建造物 北海製罐小樽工場群のひとつ。1935(昭和10)年築。会場となる講堂はフットライト付きの舞台や横長の連続ガラス窓が特徴的で、普段は一般公開されていません。



小樽運河



八幡坂から望む若松ふ頭(函館市)



鞆の浦(広島県福山市)

第4分科会

持続可能な地域遺産まちづくり

分科会まち歩き 10:00から1時間半程度 受付開始 9:30

集合場所 住吉神社
(小樽市住ノ江2丁目5-1)

※集合場所が当初の「花園遊人庵」から「住吉神社」に変更になっております。住吉神社から住ノ江火の見櫓など、身近にある地域遺産のあり方を学ぶコースです。11:30頃に花園遊人庵に到着します。

※昼食は各自でお済ませください。花園遊人庵は1階がレストランになっております。

分科会パネルディスカッション 13:00～

会場 花園遊人庵3階ホール(旧小樽無尽(株)本店)
(小樽市花園4丁目1-1)

近年、身近な地域遺産を住民が自ら保全し、まちづくりに活用していく気運が高まっています。小樽では運河保存運動を契機に、歴史文化を活かしたまちづくりが進められるようになりましたが、各地に存続が危ぶまれる未指定文化財が多数残っており、それらの保全が課題となっています。本分科会では、観光エリアではない小樽各地の「知られざる地域遺産」に光をあて、住民が自ら守り育てていく、地域遺産まちづくりを考える分科会とします。

コーディネーター

池ノ上 真一氏 [北海商科大学商学部観光産業学科 教授]

アドバイザー

惣司 めぐみ氏 [NPO法人京町家再生研究会]

パネリスト

塩見 實氏 [静岡県ヘリテージセンター SHECセンター長 / 連盟理事]

山田 かおり氏 [縄文DOHNANプロジェクト 代表]

北口 博美氏 [NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 事務局長]

高野 宏康氏 [国立大学法人小樽商科大学 客員研究員]

【論点】

各地の様々な地域遺産の掘り起こし、保存・活用の事例から現状と課題を検討し、身近な地域遺産を市民自らが自律的に守り、育て、マネジメントしていく仕組み、持続的可能な地域遺産まちづくりのあり方を考えます。



旧小樽無尽(株)本店
(現 おたる無尽ビル)

1935(昭和10)年、庶民のための金融機関、小樽無尽(株)本店(北洋銀行の前身)として建築。2001(平成13)年、解体が決定しましたが、市民有志が買い取りおたる無尽ビルとして再生しました。



火の見櫓(小樽市住ノ江)



住吉神社



カトリック小樽教会住ノ江聖堂

3

4

第5分科会

アートの視点から見た 歴史的町並みの潜在的価値

※P7を参照

分科会まち歩き 9:30から1時間半程度 受付開始 9:00～

集合場所 小樽市観光物産プラザ(運河プラザ)〈旧小樽倉庫〉
(小樽市色内2丁目1-20)

事前にお申込みされている方は「歴史文化まち歩き」Aコースのプログラムへご参加ください。観光の中心スポットから運河中央、運河散策路を通して、幅員がほぼ創設時のままの北運河地区を通り、国指定重要文化財「旧日本郵船(株)小樽支店」や、北海道鉄道発祥の旧国鉄手宮線を散策します。

※昼食は各自でお済ませください。

分科会パネルディスカッション 13:00～ 受付開始 12:30

会場 小樽市観光物産プラザ(運河プラザ)〈旧小樽倉庫〉
(小樽市色内2丁目1-20)

かつて小樽を二分した運河論争。若い世代はこの出来事を知らない者も多数います。2020(令和2)年には北運河に停留されていた最後の舁(はしけ)が撤去されました。歴史的景観が変わっていくことに、私達は無関心なままでよいのでしょうか。地域で暮らしていると歴史的町並みは見慣れた光景となり、その魅力は見えにくくなっていきます。アートの視点でまちの隠れた魅力を発見し、まちづくりに活かしていくことを考える分科会とします。

コーディネーター

濱谷 雅弘 氏〔元北海道科学大学 教授〕

アドバイザー

大倉 宏 氏〔美術評論家 / 新潟まち遺産の会 代表 / 連盟常任理事〕

パネリスト

龔 卓軍 氏〔台南芸術大学 教授〕

細淵太麻紀 氏〔BankART1929 代表 / アーティスト〕

福島 慶介 氏〔NPO法人OTARU CREATIVE PLUS 専務理事 / ㈱福島工務店 代表取締役〕

【論点】

国内外のさまざまな事例を参考に、アートが歴史的町並みとの融合により果たす役割や期待される効果について検討します。また、その可能性について感じてもらい、新たな活動のきっかけにつながる分科会を目指します。



旧小樽倉庫
(現 小樽市観光物産プラザ)
1980(明治23)年～1984(明治27)年建築。小樽運河沿いに建つ木骨石造の倉庫で、北側を市博物館、南側を運河プラザに活用されています。



旧北海製罐(株)小樽工場第3倉庫



旧国鉄手宮線(小樽市)



撤去された舁(はしけ)

全体会 9:00～12:00

会場 小樽市議事堂(小樽市花園2丁目12-1小樽市役所本館3階)

受付開始 8:30～

記念シンポジウム 9:00～10:25

「市長サミット 町並み保存とまちづくり」

重要伝統的建造物群保存地区に選定され、活用する都市、模索する都市、目指す都市など、本ゼミでの成果を踏まえ、制度の活用と町並み保存、まちづくりはどうあるべきかを考えるシンポジウムとします。

コーディネーター

西村 幸夫 氏
〔國學院大学 観光まちづくり学部長 / 全国町並み保存連盟常任理事〕

アドバイザー

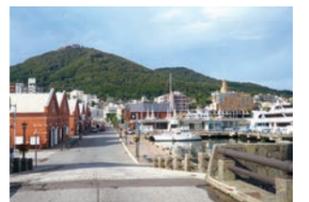
駒木 定正 氏
〔小樽市文化財審議会 会長〕

パネリスト

内子町長 小野植 正久 氏
函館市長 大泉 潤 氏
小樽市長 迫 俊哉 氏



内子町の町並み



函館市の町並み

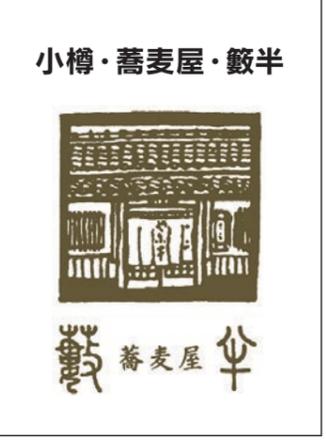
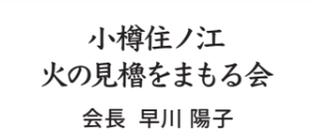
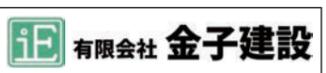
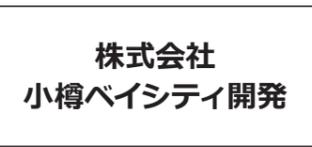
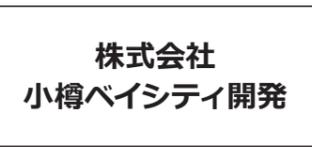


小樽市の町並み(小樽運河)

分科会報告 10:30～11:00

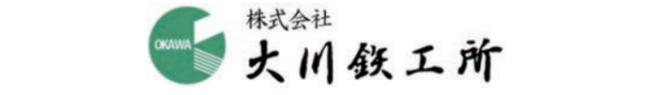
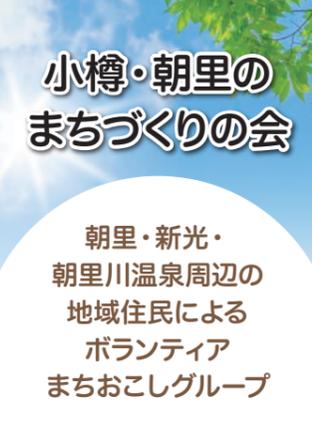
峯山富美賞贈呈式 11:00～11:30

閉会式 大会宣言・次期開催地へ大会旗の引き継ぎ

第46回全国町並みゼミ小樽大会 実行委員会名簿

名誉実行委員長	迫 俊哉 (小樽市長)	赤井 宗規	高橋 侑吾
相談役	中野 豊 (小樽商工会議所 会頭)	荒木 慶子	田口 智子
	西條 文雪 (一般社団法人小樽観光協会 会長)	池田 憲昭	徳満 康浩
	似鳥 昭雄 (株式会社ニトリホールディングス 代表取締役会長)	井上 晃	中村ひなの
	浅原 健蔵 (株式会社北一硝子 代表取締役会長)	太田 政明	南部 真人
	簗谷 修 (有限会社利尻屋みのや 代表取締役会長)	面野 大輔	西野 靖得
顧問	林 秀樹 (小樽市教育長)	加茂 駿人	平沢 真生
	駒木 定正 (小樽市文化財審議会 会長)	川口 一紗	平瀬 好美
実行委員長	中 一夫	川嶋 王志	廣瀬 久也
副実行委員長	小笠原真結美	木田 世界	藤本 浩樹
	笠田健太郎	西條 公敏	峰尾 光人
	永岡 朋子	佐々木 秩	宮田 賢人
	橋本喜生子	笹原 馨	山澤 亮司
事務局長	岡部 唯彦	須永 将史	山戸 大知
監査	渡邊真一郎	高野 宏康	山本 侑奈

全国町並みゼミ 過去の開催地とそのテーマ

2022	第45回全国町並みゼミ	新潟市大会	市民の活動でつなげる歴史まちづくり～みなとまち新潟から考える～
2021	第44回全国町並みゼミ	奈良大会 (ハイブリッド)	まちの資産のいかしかた ～なにを、だれが、どのように～
2020	第43回全国町並みゼミ	桜川真壁大会 (オンライン)	これからの町並み保存とは? たび重なる災害からの復旧と新しい生活様式の中で
2019	第42回全国町並みゼミ	川越大会	歴史都市のこれから: 過去に学び、今を見つめ、未来を思い、共に歩む
2018	第41回全国町並みゼミ	長野松代・善光寺大会	町並みを守って歴史文化のまちづくり: 次世代へ・未来へ、伝える・つなぐ
2017	第40回全国町並みゼミ	名古屋有松大会	町並みはわたしが守る、みんなのものから40年
2016	第39回全国町並みゼミ	大内・前沢大会	町並みを次の世代へ: 保存と暮らしの共存
2015	第38回全国町並みゼミ	豊岡大会	ふるさとよみがえりへの想い: コウトリ舞う豊岡にて
2014	第37回全国町並みゼミ	鹿島・嬉野大会	つなごう歴史遺産 みがごう町並み文化
2013	第36回全国町並みゼミ	倉敷大会	つながる地域文化の伝統と創造: 備中の風土力の発信
2012	第35回全国町並みゼミ	福岡大会	地域遺産の再発見と街の魅力創出: 福岡から生かそう町並みとアジア文化
2011	第34回全国町並みゼミ	飛騨市大会	つなごう歴史の町づくり: 飛騨の匠の技と心を伝えよう
2010	第33回全国町並みゼミ	盛岡大会	暮らしの息づく町並み: 住民による歴史まちづくり
2009	第32回全国町並みゼミ	佐原・成田大会	歴史的資源を生かしたまちづくり
2008	第31回全国町並みゼミ	卯之町大会	だんだん学ぼう よもよも人づくり
2007	第30回全国町並みゼミ	伊勢大会	伝えよう、心とカタチのまちなみ文化
2006	第29回全国町並みゼミ	八女福島大会	未来へ継承するぞ、町並み文化
2005	第28回全国町並みゼミ	美濃大会	とりもどそまいか、町並みの賑わい
2004	第27回全国町並みゼミ	大聖寺大会	ゆったりと行こう、あったらものと共に
2003	第26回全国町並みゼミ	今井大会	再び、町並みはみんなのもの
2002	第25回全国町並みゼミ	鞆の浦大会	見ようや! ふるさとの文化: 文化で生活(めし)がくえるかのう
2001	第24回全国町並みゼミ	小樽大会	21世紀・新しいまちづくりの手法と展望
2000	第23回全国町並みゼミ	日南大会	文化財保護法50年、伝えよう文化財の町並み
1999	第22回全国町並みゼミ	白杵大会	まちなみ・環境・まちづくり、今ふたたび白杵から
1998	第21回全国町並みゼミ	東京大会	日本の町並み 東京の町並み
1997	第20回全国町並みゼミ	村上大会	ひとなみ・まちなみ・まちづくり
1996	第19回全国町並みゼミ	犬山大会	みんなで考えよう、保存・育成・創造の町づくり
1995	第18回全国町並みゼミ	妻籠大会	町並み保存の原点を、みんなで喋り考えよう
1994	第17回全国町並みゼミ	須坂大会	明日にはぐくむ、町並みの輪
1993	第16回全国町並みゼミ	川越大会	武州・川越町並み博、あれから百年、これから百年
1992	第15回全国町並みゼミ	吉井大会	町並み再発見・ゆとりと調和
1991	第14回全国町並みゼミ	角館大会	町並みは、お祭のこころ
1990	第13回全国町並みゼミ	京都大会	町並みははんなり・歴史都市
1989	第12回全国町並みゼミ	栃木大会	生かそう蔵の町
1988	第11回全国町並みゼミ	竹富大会	語ろう町並み、広げよう“うつぐみ”の輪
1987	第10回全国町並みゼミ	松阪大会	生活文化としての町並みを考える
1986	第9回全国町並みゼミ	会津大会	町並みと商人文化の創造
1985	第8回全国町並みゼミ	龍野大会	残そう、町並みの心と形
1984	第7回全国町並みゼミ	大平大会	町ぐるみ語れ! 町並みこそふるさと
1983	第6回全国町並みゼミ	白杵大会	町並みに誇りと息吹と未来とを
1982	第5回全国町並みゼミ	東京大会	語ろう、明日の町並み町づくり
1981	第4回全国町並みゼミ	琴平大会	息づけ! 町並みの顔
1980	第3回全国町並みゼミ	小樽・函館大会	あたらしい町自慢の創造を
1979	第2回全国町並みゼミ	近江八幡大会	明日へ活かそう、われらの遺産
1978	第1回全国町並みゼミ	有松・足助大会	町並みはみんなのもの

小樽で過去に開催した全国町並みゼミ

第3回 全国町並みゼミ小樽・函館大会

《テーマ》 あたらしい町自慢の
創造を

《開催日》1980年5月24日-27日



第24回 全国町並みゼミ小樽大会

《テーマ》 21世紀・新しいまちづくり
の手法と展望

《開催日》2001年9月28日-30日



助成



【発行】第46回全国町並みゼミ小樽大会実行委員会

事務局/㈱オー・プラン 〒047-0031 北海道小樽市色内1丁目9番6号

【発行日】2023年10月13日

表紙古写真/志佐公道